



まがたま

一人一人が輝く学校・地域と共に歩む学校

令和8年4月28日

豊玉中学校だより No. 35

【E-mail】 matsushita.yoko2@nerima-ky.ed.jp

【URL】 <https://www.nerima-ky.ed.jp/toyotama-j/>

今年度で着任4年目を迎えました校長の慶野 富士夫でございます。今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

4月も下旬となり、校庭の若葉が色を深め、春の穏やかな陽気の中で生徒たちの元気な声が響いています。始業式・入学式を終え、全校生徒290名で新年度が始まりました。3週間が過ぎ、1年生は初々しさの中で学校生活に慣れ、2・3年生は上級生としての自覚が見られます。生徒たちは学習や活動に前向きに取り組み、学校全体に温かい雰囲気広がっています。

これからも「安心して学べる学校づくり」を柱に教育活動を進めてまいります。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年度 始業式

4月7日(火)に令和8年度始業式が行われ、新2・3年生計192名が進級しました。保護者の皆様おめでとうございます。以下が始業式での校長講話になります。

～ 前半省略 ～

さて、ここで皆さんに、ひとつ聞いてみたいことがあります。「3つの願い」と聞くと、何を思い浮かべますか？私は、ランプの魔神ジーニーが登場する『アラジン』や、ドラゴンボールを集めると姿を現すシェンロンが登場する『ドラゴンボール』が、真っ先に思い浮かびます。この二つの物語に共通しているのは、「願いを叶えてくれる存在が現れる」という点です。

では、もし今、皆さんの前にジーニーやシェンロンが現れて、「3つの願いを言いなさい」と言われたら、皆さんは、どんな願いを思い浮かべるでしょうか？「もっと勉強ができるようになりたい」、「おこずかいを倍にしてほしい」、「理想の体型になりたい」、「自信をもてる自分になりたい」など、人によって様々な願いが出てくると思います。しかし現実はどうでしょうか。私たちの前には、ジーニーもシェンロンも現れてはくれません。では、私たちの願いは叶わないのでしょうか？私は、そうは思いません。

物語のように誰かが魔法で願いを叶えてくれることはありませんが、それでも私たちは、自分の願いを叶えることができます。なぜなら、現実の世界で願いを叶える力は、「自分の意識や行動を少しずつ変えていくこと」によって、自分自身の中から生み出すことができるからです。

だからこそ、今日、新年度のスタートにあたり、私からも皆さんに「3つのお願い」をします。これは、誰かに叶えてもらう魔法ではありません。皆さんが今年一年、自分自身の手で自分をより良い方向へと成長させていくために、ぜひ心に留めてほしい、大切な3つのお願いです。

まず一つ目のお願いです。それは、「人の話を、耳だけでなく、目と心でも聴いてほしい」ということです。誰かの話を聴くときには、「へそを相手の方に向ける」、「相手の目を見る」、「その言葉を心で受け止める」ことを意識してください。そうやって向き合ってもらえたとき、人は「自分は大切にされている」と感じます。逆に、別の方向を向いたまま聞かれたら、心は閉じてしまいます。こうした安心感や寂しさは、皆さんも経験があるはず。「聴く」という行為は、単なる情報の受け取りではありません。「私はあなたを大切に思っています」という、最も身近な思いやりの表現です。授業中に先生の言葉へ体ごと向き合うこと。休み時間に友だちの言葉を心で受け止めること。まずは自分の体の向きを変える。そこから、相手を尊重する本当のつながりが始まります。今日から、「自分から心を開く聴き方」を大切にしてください。

次に二つ目のお願いは、「自分の耳で聴き、目で見て、頭で考えて、行動してほしい」ということです。皆さんに目指してほしいのは、「他人任せにしない自分」です。「誰かがやってくれるだろう」「先生に言われたからやる」という受け身の姿勢では、本当の成長は得られません。それでは、自分の人生を自分自身の足で歩んでいないのと同じだからです。今、目の前で何が起きているのかを自分の目で確かめ、耳で確かな情報を受け取り、それが自分や周りにとってどういう意味をもつのかを、自分の頭でじっくりと考えてください。誰かの判断に乗っかったり、その場の雰囲気に流されたりせず、一歩踏みとどまって「自分で確かめてから決める」という主体的な姿勢を忘れないでください。学校生活での一つひとつの選択に自分自身で責任をもつ。そういった積み重ねが、皆さんの中に自分を律する強い心を育てていきます。今日から、「自分の目で確かめ、自ら考えて動く自律の姿勢」を大切にしてください。

最後に三つ目のお願いです。それは、「視野を広げ、先を見通して、物事を広く捉えてほしい」ということです。私たちは、自分のことだけで精一杯になると、周りが見えなくなり、視野がどんどん狭くなってしまいます。しかし、そんな時こそグッと顔を上げて、意識して「より遠く、より広く、そして少し先」を見渡してほしいのです。そのように視野を広くもつことができれば、あなたを支えようと見守っている存在に必ず気づき、正しく助けを求めることができます。それは同時に、今、困っている仲間や、その人が次に何を必要としているのかにいち早く気づき、そっと手を差し伸べる優しさの源にもなります。自分だけの世界に閉じこもらず、周囲や先を見通す広い視点を意識しましょう。今日から、この「視野を広げ、物事を広く捉える姿勢」を大切にしてください。

「全身で聴く」「自律して動く」「視野を広くもつ」、今日、皆さんに三つの願いの話をしました。これら三つのことを、皆さんが日々の生活の中で意識していくことで、この一年が終わる頃、「私は自分の意志で、この三つのお願いを実践してきた」と胸を張って言えるようになってほしいと願っています。私を含めて先生方は、皆さん一人ひとりの歩みに寄り添い、その挑戦を全力で支えます。皆さんが、自分自身の願いを叶える「主人公」として、この令和八年度を力強く歩いていくことを期待しています。

令和8年度 入学式

4月8日(水)には入学式が挙行され、新入生98名を迎えることができました。保護者の皆様、改めておめでとうございます。以下に校長の式辞を紹介いたします。

～ 前半省略 ～

三年間の中学校生活は、義務教育を終え、大人として歩み始めるための大切な準備期間です。決められた道を歩くだけでなく、自分で選んだレーンを力強く走り抜くことが必要になります。そこで、皆さんがこれからの三年間を、歩むうえでの道標として、本校の校章にある五つのまがたまに込められた「五つの理想」を紹介します。

一つ目は、「真理を探究する」です。これは、物事の本質について「本当はどうか」を自分の頭で考え、確かめようとする姿勢です。今、人類はアルテミス計画によって、再び月を目指し、「月には何があるのか」「人はそこで暮らせるのか」という問いに挑んでいます。こうした探究の歩みは、皆さんが、日々の学びの中で抱く、「なぜだろう」という小さな疑問と同じ根をもっています。また、現代は膨大な情報が瞬時に届く時代ですが、そのすべてが真実とは限りません。だからこそ、「これは本当に正しいのか」と自分で確かめる力が求められます。真理を探究するとは、安易な情報に流されず、自分の目と耳で確かめ、自分の言葉で答えを見つけていくことです。二つ目は、「たくましさを培う」です。たくましさとは、困難に直面したときにあきらめず、もう一度立ち上がろうとする強さです。近年、日本では大きな災害が続きましたが、そのたびに地域の人々が支え合い、復興へ歩みを進める姿がありました。また、日本赤十字社の救護活動に見られるように、「誰かのために自分には何ができるのか」と考えて行動する人々の姿は、「真の強さ」とは何かを、私たちに気づかせてくれます。皆さんも、これからの学校生活で学習につまずいたり、友人関係に悩んだり、部活動で壁にぶつかったりすることがあるでしょう。大切なのは、「倒れないこと」、ではなく、倒れても再び立ち上がるしなやかな強さになります。

三つ目は、「己を磨く」です。自分の可能性を引き出すために努力を続け、よりよい自分を目指す姿勢のことです。将棋の藤井聡太棋士や大リーグの大谷翔平選手に共通しているのは、頂点に立ってもなお、過去の成功に満足せず、常に新しい技術や考え方を取り入れ、自分を更新し続けている点です。変化を恐れず挑戦を重ねる姿は、「己を磨く」ことの本質を、私たちに示しています。皆さんも、これからの三年間で学習や部活動、様々な体験を通して、自分の限界を決めつけずに挑戦する場面が訪れます。他人と比べて優劣をつけるのではなく、「昨日の自分を今日の自分が少しだけ超えていく」ことが重要なのです。

四つ目は、「友情を育て合う」です。友情とは、友人との関係を深め、互いに信頼と理解を築くことです。今年六月には、カナダ、メキシコ、アメリカの三つの国を舞台に、史上最大規模のサッカーワールドカップが開催されます。四十八の国と地域が共通のルールの下に集い、互いを尊重し合うこの大会は、多様性と共生の象徴です。そして、異なる背景をもつ人々が、協力し合うことの価値を伝えてくれます。学校生活も、この「共生」を実践する場です。価値観の違いに直面したときこそ、相手の立場に立って考え、言葉を尽くして丁寧に向き合うことが大切です。互いの違いを壁ではなく力に変え、理解し合いながら関係を深めていく。その積み重ねが、真の友情を育てます。

五つ目は、「身体を鍛える」です。運動やトレーニングを通じて、自らの身体をより健康的で、強く、しなやかに築き上げることです。今年二月、イタリアのミラノとコルティナで、冬季オリンピックが開催されました。極限のプレッシャーの中で力を発揮した選手たちを支えていたのは、技術だけではありません。日々の食事や睡眠を整え、心を安定させるメンタル管理を徹底し、心身を鍛え上げてきたからこそ、世界の舞台に立てたのです。健康な体こそが、夢を追い、理想を実現するための土台です。「身体を鍛える」とは、単に体力をつけることではなく、一生を支える土台をつくり未来の自分を守る力を養うことにつながります。

以上の五つの理想を三年間の学びの中で、確かな力として身につけていくことを願っています。もちろん、これからの学校生活には思い通りにいかないこともあります。新しい環境に戸惑ったり、努力しても結果が出ずに悩んだり、立ち止まってしまうこともあるでしょう。そんなときには思い出してください。皆さんの周りには、家族、先生方、地域の方々、そして共に悩み、支え合う仲間がいます。一人で抱え込まず、助けを求め、手を取り合いながら、一歩ずつ前へ進んでほしいと思います。

結びになりますが、ご来賓の皆様、保護者の皆様、在校生の皆さん、そして教職員の皆さん、本日から私たちは、新入生の最も身近な「伴走者」であり「サポーター」です。一丸となって新入生の成長を支え、見守っていきましょう。一人ひとりが自らのレーンを力強く走り抜けられるよう、共に支え、その挑戦を後押ししていきましょう。

改めて新入生の皆さん、本日から皆さんは豊玉中学校の一員です。ともに学び、ともに悩み、この学校をさらに良い場所にしていきましょう。準備は整いました。皆さんは今、真っさらなスタートラインに立っています。指先をラインに合わせて——「Ready —— Go!」